オンラインドリル DGSG の学習方法

<u>http://lang.hiroshima-u.ac.jp/dgsg/</u> へ行きます。すると以下の図 1 のログイン画面が出ます。 図 1



ここで、登録したメールアドレスとパスワードを入れて「login」をクリックします。なお、正規登録せずにそのまま使う人は guest user ボタンを押してください。すると、正規登録した人は、以下の図 2-1 の画面へ、guest user は図 2-2 の画面行きます。データベースに登録された問題は(2013 年 7 月現在)約 5600 題です。正解を選ぶ四択問題と正解を書き込む筆記問題の 2 つの形式で学習できます。

図 2-1









学習モードには、以下の4つのモードがあり、好きなものを選びます。「lesson」(練習)モードで学習し、どれくらいできるようになったかを「test」(テスト)モードでテストするというのが通常の使い方です。「history」(履歴)モードは、過去の学習記録を確認したり、過去に行ったテスト問題やその類題に再挑戦するときに使います。ただし、この機能は正規登録した人しか使えません。そのため、guest user 用の図2-2の画面には、「history」モード表示ボタンはありません。「one」モードは、問題番号を指定して1題ずつ練習していくときに使います。

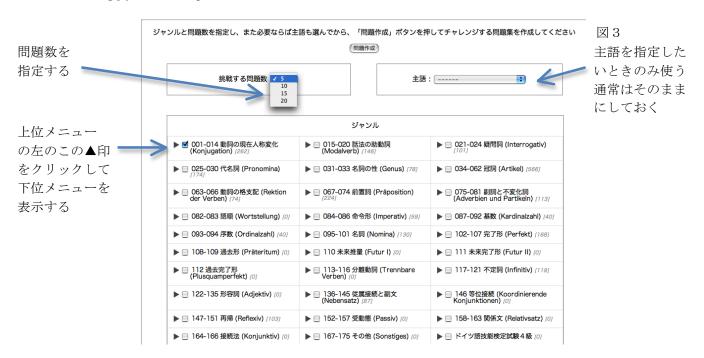
<4 つの学習モード>

lesson:問題が1題ずつ出る練習モードです。間違えても誤答に対するフィードバックが表示され、もう1度チャレンジできます。四択問題では2回、筆記問題では3回、それぞれ間違えると、自動的に正解が表示されます。正解表示後には、解説と、その問題がどのような文法項目を扱ったものかについての情報、およびその項目に関する文法説明ページへのリンクが表示されます。なお、練習モードでは、その他にも、単語や文法項目の説明などを提供する「ヒントボタン」や「日本語訳表示ボタン」、「音声ボタン」の各機能が使えます。

test: 問題が1度にすべて表示される1回勝負のテストモードです。すべての問題に答えた後で、採点ボタンを押すと、個々の問題の解説と採点結果や得点が表示されます。テストモードなので「ヒントボタン」はありませんが、「日本語訳表示ボタン」、「音声ボタン」の機能は使えます。

history:過去に自分が行った練習の記録やこれまで行ったテストの答案形式での履歴を見ることができます。 また、テストモードについては、過去に行ったものと全く同じ問題や、過去に行った時と同じ条件 で新たに生成した類題からなる問題を使った再テストができます。なお、このモードは、自分のメー ルアドレスを使って、正規にアカウント登録した人だけが使えます。 one: 個々の問題に振られた問題番号を入力することで1題ずつ練習モードで学習できます。過去に間違えた問題の番号をあらかじめメモしておくと、それらの問題を後からピンポイントで復習できます。

以下では、図 2-1 あるいは図 2-2 で「lesson」(練習モード)を選択したときの実際の学習手順を説明します。図 3 の「lesson」をクリックすると以下の図 3 のメニューが出ます。このメニュー自体は「test」をクリックしたテストモードでも変わりません。

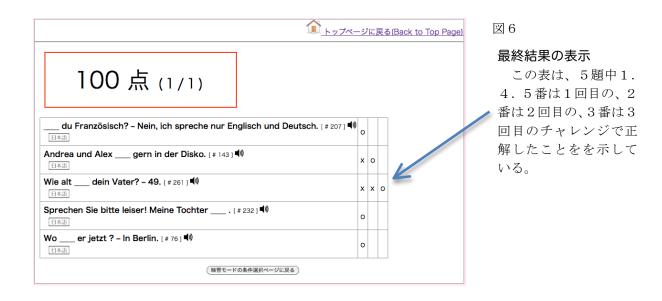


現在メニューには、175 項目の初級から中級用のドイツ語文法問題(約 4000 題)と独検 4 級と独検 3 級の対策問題(約 600 題 四択形式のみ)、過去 25 年間の大学入試センター試験のドイツ語文法問題(約 1000 題 四択形式のみ)が含まれています。最初に表示されるのは、上位メニューだけで、上位メニュー左の▲印をクリックするとその上位メニューに含まれる下位メニューを表示できます。学習したい下位メニュー左の□に個々にクリックを入れることで学習項目を選択できます。なお、上位メニューの左の□にチェックを入れることで、それに含まれる下位メニューを一挙に選ぶこともできます。挑戦する問題数はプルダウンメニューで 5 題、10 題、15 題、20 題の4 種類から選ぶことができます。また、助動詞や不規則動詞の活用など特定の主語の時の活用形のみを練習したい場合は、問題文の主語を指定することもできます。これらの情報を選んだ上で、「問題作成」ボタンを押すと、指定した条件の問題を指定した数だけデータベースの中から自動的に選び出して、自動採点式の練習課題やテストを画面に表示してくれます。図 4 は、練習モードのメニューから「001 規則動詞の現在人称変化 (ich/du/Sie)~012 不規則動詞の現在人称変化 (sein 型)」を選び、主語を指定せず 5 題の練習問題数を指定したときに最初に表示される練習画面例です。また、図 5 は、図 4 の画面で「Sprichst」を選び、正解した時の画面です。





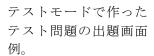
所定の問題数が終わるとこれまでの正誤表が表示されます。そのままやめることもできますし、間違った問題だけをもう一度繰り返すこともできます。間違えたものを再度練習して最終的にすべて正解すると、図6のような画面になります。このレベルまでの練習を何度か繰り返し、最終的にテストモードでどれくらいできるようになったか実力判定してみましょう。



たとえば、図 7 は、同じ条件の下に、テストモードで作ったテストの出題画面例です。また、図 8 はその解答後の採点画面例です。

なお、DGSGの問題では、初級から中級で重要な基礎単語が繰り返し出てきますので、繰り返し練習することで重要単語を自然に覚えることができます。また、解答する直前に音声ボタンで正解を耳で確認したり、毎回音声ボタンを聞いて、自分自身でも読み上げたりすることで、発音や聞き取りの練習もできます。特に、近年の研究で発音が良くなるとそれだけで自然に聞き取りの力も伸びることが知られていますので、例文の音声を聞いて自分で発音してみる練習は、短期間で聞き取りの力を上げるにも効果的です。









60点(3/5)





主語は1人称単数 ich ですので、sein 動詞の活用形は bin となります。英語の l am ~. に当たるものなのでしっかりと覚えましょう。

テストモードで作った テスト問題の採点画面

図8

例。